



撮影 新1号館 写真家 北嶋俊治氏

工化時報

第19号

目次

OBから大学への提言-----	p.2~3
平成13、14年度 新任教員の紹介-----	p.4~6
第3回一日体験化学教室-----	p.7
産学技術交流会報告-----	p.8
次回産学技術交流会について-----	p.9
工化会総会-----	p.10~11
会費納入者一覧-----	p.12~13
工化会名簿発行のお知らせ-----	p.14
クラス会・同窓会の報告-----	p.15~18
学生編集委員 物質応用化学科について---	p.19
お知らせ-----	p.20

※表紙の写真の掲載に当たり
ご協力頂いた理工学研究所
川島 茂 先生始め関係各位
に感謝致します。



撮影：旧1号館 建築学科 大川三雄先生

シリーズ O Bからの大学への提言

産学官連携の必要性

工化会 会長 清 永 弘 興

本年4月より安達前会長の後任で会長という重責を承り、何も分らない全くの白紙の状態ですので、種々ご迷惑をおかけ致しますが、皆様のご助力をいただきながら職務をまっとうしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、日本経済は銀行の抱える莫大な不良債権問題に始まり、各企業は途上国特に中国の安価な労働力に押され気味で元気がなく、株価は大幅な値下がり、危機感が一杯といった昨今ですが、大学においても就職難の洗礼を受けておられることと拝察いたします。しかしながら、大学での研究は経済不況とは関係なく「日本の技術力を見てみろ」という誇りと気概を持って取り組んで欲しいと思います。

特に化学分野は無限の可能性を秘めております、21世紀は環境調和の世紀と言われておりますが、地球温暖化ガスの排出抑制、省エネルギーからリサイクルに至るまでの広範囲にわたっており、それぞれに化学技術が利用されています。

去る11月22日(金)には、第2回産学技術交流会が開催されました。

主題は「グリーンサステナブルケミストリー」で、基調講演には工学院大学教授御園生 誠先生をお招きして「グリーンケミストリーとは、化学と化学産業が21世紀に生き残り、持続的社會に貢献する唯一の道であります。そのためには環境負荷の大幅な低減を図り、経済性、効率性、機能性を追求し、社会との信頼関係を築くことである」との熱のこもったご講演を戴いた後、日大理工の三教授による講演に続いて分科会でポスター・パネル展示が行われました。

本技術交流会には一般企業から約60社・70名の参加をいただき、盛会であったとの事でした。(残念ながら、当日私

は他の行事と重なり出席出来ませんでしたので)

最近、産学官連携の必要性が強く言われております、今後とも産学技術交流会を是非続けていただきたいと念願しております。

昨今理工系志望の学生さんが減少傾向にありますが、彼等はまさに金の卵です。この若きエンジニア達を厳しくかつ優しく育てていただき、化学は面白いという興味を持ってもらうことが大切かと思えます。また、若きエンジニア達はノーベル賞も夢ではないという希望を持って、失敗を畏れずに大いに頑張つて欲しいものです。社会に出て例え化学と離れることが有っても化学の心を常に持ち続けていただきたいと願っています。

これからも工化会がますます発展して社会に微力ながら貢献できるよう努力致したいと存じますので、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

訃報

工化会会長 清永弘興氏におかれましては
1月3日に逝去されました。謹んで哀悼の
意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

工化会

上野敦行先生は平成14年10月に逝去されましたが、ご遺族から電気化学研究室(上野研)出身者の会の預金139,231円を工化会へ寄付の申し出が、同研究室出身者の入倉芳郎様を介してありました。

工化会は有り難く、その申し出を受け入れましたことをご報告しますとともに、上野先生に哀悼の意を表します。

平成13、14年度 新任紹介**長田洋子先生****環境微生物学研究室 教授**

昨年(2001年)4月から環境微生物学研究室の教授としてお世話になっています。体の中に存在するアミノ酸の光学異性体の役割・由来や熱湯に生える微生物などについて研究しています。大阪生まれの大阪育ち、大阪大学理学部卒、同大学院博士課程終了までは旅行以外大阪を離れたことはなかったのです。ところが、当時は今以上の就職難(特に研究職希望の女性には)、ついにアメリカに行く羽目になりました。世界で最大・最先端の医学関係研究所、ワシントン郊外にある国立衛生研究院(NIH)でアメリカ政府からポストドク研究者として援助を受けながら研究生活を送ることができました。しかし帰国後も就職できず、再渡米、ニューヨークのコーネル大学医学部のシニア研究員として働き出した矢先、ようやく札幌医科大学(助手)に職を得ることができ、その後姫路工業大学理学部(助教授)を経てとうとう東京にやって来ました。今まで私立大学とは縁が無かったのですが、日本大学に来てから多くの学生に囲まれて楽しく仕事をしています。

平野 勝巳先生**資源利用化学研究室 助教授**

私は、平成13年4月に資源利用化学研究室に助教授として赴任しました。神戸大学工学部化学工学科を卒業し、北海道大学エネルギー先端工学研究センターで学位を取得しました。大学卒業後に住友金属工業(株)中央技術研究所に入社し、通商産業省の石油代替エネルギー開発プロジェクト(サンシャイン計画)に参画して石炭液化の研究を行ってきました。同分野の研究を行ってこられた真下清教授とのご縁で本学に奉職した後は資源利用化学を専攻し、木質バイオマスや廃プラスチック等の未利用炭化水素資源をリサイクルしてエネルギー転換する研究を行っています。産官学の各界

を渡り歩いた経験を活かし、これらの連携を通じて本学の発展に寄与したいと考えております。工化会員各位には、廃棄物処理や省エネルギー等に関するご指導、ご鞭撻(委託研究等)をよろしくお願いいたします。

西村克史先生

環境微生物学研究室 専任講師



工化会の皆様、はじめまして。平成14年4月1日付けで短期大学部応用化学科に専任講師として赴任しました、にしむらかつしと申します。学部では環境微生物学研究室に所属しております。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、昭和39年に京都に生まれ、27才まで学生をしており、教育学士、農学修士、農学博士を取り、また、夫になったり、父になったりしました。平成4年に山梨大学工学部に採用され、10年間助手として、酵母の研究をしておりました。もちろん、酒を造らない酵母！を用いて、様々な生育試験を行いつつ、菌体外酸性多糖の大量生産や糖アルコール分解経路の解明などの仕事に携わっていました。

現在は、D-アミノ酸に関連する酵素の分布・単離・構造などの研究を通して、D-アミノ酸の生物界における起源と本源的な存在意義の探究を進めております。教育並びに研究に全力で励んでまいりますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

青山 忠先生

有機合成化学研究室 助手



生年月日：1976.10.23 出身地：東京都

学歴：芝浦工業大学大学院工学研究科修士課程修了

職歴：日立化成工業(株)電子基材開発部(2001.4-2002.1)

主な研究テーマ：担持試薬を用いた有機合成

有機化合物を生産するとき、昔から問題となっていたのがその副生物であります。これを取り除くにはときに生産費以上の費用を費やすことも少なくなく、必要とする物質だけを選択的に合成し、有害物質を排出しない新合成法の開発が環境保護の観点からさらに重要になっています。そのために、

グリーンケミストリーを意識した新しい合成反応・反応試剤の開発や従来不可能であったワンポットでの多段階反応に関する研究を行っています。趣味：ドライブ、旅行、写真など

松田弘幸先生

化学工学研究室 助手



まずこれまでの略歴であります、平成11年3月に工業化学科を卒業、平成13年3月に工業化学専攻博士前期課程を修了、同年4月に物質応用化学科助手に着任し、現在に至っています。学生の頃から化学工学研究室に所属し、液液平衡や混合熱といった化学プロセスの設計・運転の基礎である化学工学物性の測定や推算を中心に研究に取り組んでいます。助手に着任してから2年が経とうとしていますが、研究室や3年生の学生実験を通じての多くの学生との出会いは、私にとっても新鮮な刺激となっています。

未熟者の私にはまだ将来の研究に対するビジョンを語る力を持ち合わせていません。勉強すべきこともたくさんあります。しかし、このような状況であるからこそ、自分自身をしっかりと見つめ、「今自分が為すべき事は一体何なのか、何をしなければならぬのか。」をしっかりと思慮し、行動に移していきたいと思えます。

静電容量型変位計・超音波リニアモータの輸入販売

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比須1丁目20番8号
(エビスパルビル5F)

電話 (03) 5793-1561 ファクシミリ (03) 5793-1562

昭和35年卒 代表取締役 安達昭郎

ポリオレフィン系コンパウンドの製造・販売

昭和化成工業株式会社

□本社・工場 〒348 8585
埼玉県羽生市小松台1-603-29
TEL 0485-61-5221 FAX 0485-61-5229
□技術・試験
TEL 0485-61-5225 FAX 0485-61-5228

昭和53年卒

代表取締役社長 池本俊一

□東京支店 〒101-0032
東京都千代田区岩本町3-3-2 アックス神田8F
TEL 03-5823-1301 FAX 03-5823-1304
□大阪支店 〒532-0011
大阪府大阪市淀川区西中島6-1-3 7stD新大阪第2ビル10F
TEL 06-6307-2727 FAX 06-6307-2748
□名古屋営業所 〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅3-15-1 名古屋9'ビル2号館
TEL 052-581-2211 FAX 052-581-2385

一日体験オープンキャンパス

第3回日本大学理工学部物質応用化学科 一日体験化学教室ワーキンググループ(W.G)

平成14年7月20日(土)に本年も高校生のための一日体験化学教室が行われた。この会の開催は、昨今の化学嫌い、実験を行ったことのない高校生に少しでも化学の面白さを体験してもらうのが趣旨であるが、どの大学もこの会の開催を行い高校生の取り合いが激化している。これを裏付けるかのように、これまでの2回は100名を超える応募があったが、3回目となる今回は高校の先生、父母を含め82名の応募しかなく、W.Gを心配させた。しかし、例年だと応募者の約2割が当日無断欠席していたが、今回は休日(海の日)でもあり、最初から覚悟を決めて高校生が応募してくれたせい欠席者はわずかに1名で当日81名が出席した。この内訳は高校生78名、高校教師1名、父兄2名であった。

高校生に実験あるいは見学してもらったテーマは下記の10種類である。Aのテーマは光学顕微鏡、電子顕微鏡および走査プローブ顕微鏡の3種を用いて順次微細な世界を見学してもらった。これ以外の9テーマは現在ある各研究室が選んだテーマである。

- A. 先端機器で微小の世界を探ろう
- B. 分子構造はどうしてわかる?
- C. 石油に代わるエネルギー資源を探ろう(石炭)
- D. 身近な水の成分を調べてみよう
- E. 物質の臨界点を見てみよう
- F. 環境に応じてさまざまな色に輝くカメレオン蛍光体をつくってみよう
- G. 卵黄の成分を調べてみよう
- H. タンパク質を分離してみよう
- I. プラスチックのリサイクルを体験してみよう
- J. 実生活の中のゲル

これらの中から2つを選択してもらい午前、午後の一つずつ体験してもらった。なお、予算の少ない中で昼食は、隣の山の上ホテル内レストランシェーナでとってもらった。

また、出席してくれた高校生にはこの会についてのアンケートに答えてもらったが、その結果をみると、実験はどうでしたかという質問に対して、もっとやってみたい、興味が持てた、面白かったという回答が合計で93%であり、この一日体験化学教室を開催して良かったのではないかと感じた。なお、平成15年度も本会を7月中に行いますので、高校生のご子弟をお持ちの方かたは早めにご連絡いただければ幸いです。



” 第2回 産学技術交流会 (化学) 2002 ” 会務報告

実行委員会委員長 澤 口 孝 志

理工学部理工学研究所分析センター主催、物質応用化学科共催、工化会(理工学部校友会工業化学部会)後援および日本化学会後援による第2回産学技術交流会(化学)2002-自然と調和する化学「グリーン・サステナブル・ケミストリーの実用技術」は平成14年11月22日(13:00~17:30)駿河台校舎8号館821教室にて催された。

主催者側 磯崎 昭徳 教授および理工学部長 小嶋 勝衛 教授の挨拶の後、工学院大学教授・東京大学名誉教授 御園生 誠 博士による基調講演「グリーン化学-持続社会を支える化学-」が行われた。

続いて、本学科が取り組んでいる研究成果:

- ①バイオマスのエネルギー転換技術(理工学部 平野勝巳 助教授);
- ②連鎖重合系汎用プラスチック-ケミカルリサイクルの新しい展望(理工学部 澤口孝志 教授);
- ③グリーンポリマーの有効利用(理工学部 矢野彰一郎 教授)を紹介した。

講演に対する質疑応答に続いて、本会事務局(囲み参照)が共同研究等の受け入れ態勢について、そして、日本大学国際産業技術・ビジネス育成センター(Nubic)事務室事務課 小澤 春雄 氏がNubicの取り組みについて説明した。

コーヒーブレイク後、本会分化合会として15:45から822教室にて本学科教員の最新の研究内容をポスター発表(17件)とNubicのパネル発表が行われた。

講演会参加者には合計183名(一般59、教員19、学生105)が参加し、会場は立見もあり熱気に包まれた。御園生 誠 先生のお話では科学技術と人間社会の係りに始まり、とくに産業界で利用されている化学技術が地球に与える影響をグリーン度基準で計り、省エネルギーに基づいた低地球環境負荷型化学技術の創出の必要性を非常に解り易く解説いただいた。さらに、昨今の国際経済情勢から日本の大学教員の学生教育にも言及され、グリーン度の高い卒業生を輩出させる義務があるとチクリと一刺し。先生ご自身のグリーン度の高い合成プロセスが国内外の学協会から高く評価されているにもかかわらず詳しい紹介はご遠慮され心残りであったが、いつの日かの楽しみにしたい。

懇親会にも多くの方(合計75名:一般45、教員15、学生15名)が集い、18:00より2号館近くの「ぶら座」にて催された。学科教室主任(安江任 教授)、工化会副会長(藤池 誠司 氏)の挨拶に続き、乾杯(理工学研究所次長 紺野 公明 教授)に移った。会場が狭く込み合いながらも、理工学部校友会会長 安達 昭郎 氏の差し入れ「ボジョレヌーボー」で喉を潤し、名刺・意見交換等がいよいよ高まった。議論沸騰いよいよ舌好調を迎えたころ、安達氏からご挨拶を戴いた。フランス風サラダを味見した頃、不肖実行委員長からの御礼に続き、安達氏による一本締めがあり、20:00過ぎに散会となった。

本会は社会に開かれた理工学部を指向する新しい行事として、昨年に続いて二度目となりましたが、本年も成功裡に無事終了できたことは、ひとえに理工学部、学科および工化会の皆様のご理解とご協力によるも

のであります。深く感謝申し上げます。

追記：その後、既に産業界から1件のお問い合わせがあり、技術相談から委託研究への発展が見込まれている。

物質応用化学科産学技術交流会(化学)事務局

sangaku@chem.cst.nihon-u.ac.jp

” 第3回 産学技術交流会 (化学) 2003 ーバイオ&バイオミメティクスの 化学と応用技術ー” へのお誘い

本学が所有する技術を通じて産学連携を図る本会は、「汎用あるいは特殊分析装置とその応用技術」や「グリーン・サステナブル・ケミストリーの実用技術」をテーマに回を重ね、昨年度はご参加いただいた183名の中から10件以上の委託分析および共同研究が実施されました。第3回は「バイオ&バイオミメティクスの化学と応用技術」と題し、現在本学が取り組んでいる生体計測、遺伝子工学、生理活性分子、生体適合材料、バイオマスなどに関する研究成果をご紹介します。また、新たな試みとして企業側からの技術発表や宣伝も募集し、新装された理工学部駿河台校舎1号館でより活発な交流を行いたいと考えております。

上記分野に関連のある方々およびご興味のある方々に一人でも多くのご参加をいただき、本会を通じて産学間あるいは異業種間で多くの有用な情報が交換されることによって、産学界が共生発展していくことを期待しております。

開催日時は下記を予定しておりますが、プログラム等の詳細は後日ダイレクトメールにてご案内いたしますので、詳細は本会事務局(下記参照)までご連絡下さい。

記

- 1.日 時：平成15年11月21日(金) 13:00～(18:00～懇親会)
- 2.会 場：日本大学理工学部駿河台校舎1号館(JR総武線御茶ノ水より徒歩3分)
- 3.参加費：未定

以上

主催：日本大学理工学部理工学研究所分析センター

共催：日本大学理工学部物質応用化学科

後援：(社)日本化学会

日本大学国際産業技術・ビジネス育成センター(NUBIC)

日本大学理工学部校友会工業化学部会(工化会)

事務局：日本大学理工学部物質応用化学科産学技術交流委員会

Tel. 03-3259-0432 (担当 石黒)

Fax. 03-3293-0432

sangaku@chem.cst.nihon-u.ac.jp

平成14年度工化会事業報告

平成14年度工化会総会は平成14年6月1日(土)午後5時より8号館851教室において、役員・会員59名の出席を得て開催された。安達昭郎会長挨拶の後、同会長を議長に選出し、各委員会の平成13年度事業報告および会計報告、続いて平成14年度事業計画および会計予算案の説明があり、審議承認された。本年度は本会役員の改選年度に当り、新役員組織案(平成14年度～16年度)が承認された。会長には清永弘興氏(昭和39年卒)が選任され、新会長のもと下記の52名が本年度より3ヶ年間本会運営の任に当る。

名誉会長：安江 任(教室主任)；

相談役：松本 太郎、太田 善造、亀ヶ森 進、関谷 道雄、
和井内 徹；

顧問：安達 昭郎、池村 糺、市川 次良、鈴木 正慶、
鈴木 敏元、清水 久雄、細谷 文夫、松本 健次、
南山 齐

会長：清永 弘興；

副会長：越智 健二、門井 守夫、倉形 邦英、藤池 誠治；

庶務委員：秋久 俊博、栗原 清文、小嶋 芳行、萩原 俊紀；

会員委員：伊藤 和宏、浮谷 基彦、櫻川 昭雄、滝戸 俊夫、
深津 誠、村川 信子；

会報委員：石黒 香織、伊藤 和雄、小川 誠、澤口 孝志、
谷川 実、遠山 岳史、永島 一男、橋本 徳子、
平野 勝巳、森田 孝節；

会計委員：清水 繁、栃木 勝己、松田 弘幸；

監査委員：植竹 和也、矢野 彰一郎；

役員：磯崎 昭徳、石山 利男、栗田 公夫、斎藤 政久、
菅野 元行、田尻 勝紀、真下 清(以上敬称略)

また、理工学部校友会(旧 工科校友会)個人表彰の候補者として故・田村利武先生(昭和27年卒)を推薦することとして総会は無事終了した。総会終了後、会場を5号館食堂に移して懇親会が開催され(出席者57名)、和やかな雰囲気の中で会は進行し、午後8時に閉会となった。

平成14年度工化会予算は収入が850万円(内訳：前期繰越金677万円、校友会割戻金40万円、会費100万円、その他33万円)である。一方、支出は庶務費64万円、会員費29万円、会報費210万円(工化時報印刷費、郵送費)の計303万円を予定している。全収入から前期繰越金を引いた本年度の予想収入は173万円である。これに対して支出は303万円であるから、本年度は繰越金を130万

円取り崩しての運営となり、財政の健全化が望まれるところである。

本年度における会員諸氏による会費の納入状況(平成14年1月15日～12月20日)は、納入者数294名(299件)、納入金額は96万円となっている。目標額をまだ若干下回ってはいるが、複数年度分の会費や寄付金を納入された方も多数おられる。会費等納入者への御礼は、工化時報本号の会費納入者氏名一覧の掲載を持って換えさせていただきたい。本会の財政の健全化と今後の発展を図るためには、一人でも多くの会員諸氏に本会の現状をご理解いただき、会費等の納入(本号綴込み振込用紙をご利用下さい)による財政的支援を行っていただけるよう切望している。また、会員諸氏には工化会への参画によって物質応用化学科との絆をさらに深めて行っていただきたい。

ここで、訃報をお知らせします。工業化学科(現物質応用化学科)に長年ご奉職され、また工化会ならびに工科校友会の発展にも多大な貢献をなされた上野敦行先生(昭和28年卒)が平成14年10月11日にご逝去されました。工化会では、会長名で生花を献花いたしました。ここに改めて先生のご冥福をお祈り致す次第です。

工化会からの校友会役員は本年度人身一新が図られた。これまで本会会長を努められた安達昭郎氏は理工学部校友会会長に選任された。また、校友会副会長には真下清氏が選任されている。

建替えを行っていた駿河台校舎の新1号館は、平成15年3月8日には竣工式を迎えます。平成15年度の工化会総会は平成15年5月31日(土)午後4時からの開催を予定しています。新1号館の見学かたがた、多数の会員諸氏が総会に出席されるよう願います。

最後に、平成14年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載する。

- ① 5月18日(土) 午後2時～4時 工化会役員会(駿河台校舎)
- ② 6月1日(土) 午後5時～8時 工化会総会・懇親会(駿河台校舎)
- ③ 7月28日(日) 午前9時～午後4時 オープンキャンパス2002(船橋校舎)
- ④ 11月22日(金) 午前11時～午後5時 第2回産学技術交流会(駿河台校舎)
- ⑤ 12月13日(金) 午後4時半～6時半 工化会後援特別講義(駿河台校舎)

以上

庶務委員 秋久俊博

会費納入者名簿

294名(299件)

會田 直喜	入江 文朗	檉村 正久	小菅 信博
青木 章夫	岩崎 晃	柏木 治彦	小谷 豊
青木 俊一郎	上田 賢二	柏木 真由子	児玉 豊
青木 匡	植竹 和也	柏原 剛	児玉 五男
青木 幸雄	上野 敦行	門井 守夫	小林 昭朗
秋久 俊博	上野 徳文	嘉藤 敦巳	小林 脩一
浅野 良哉	上野山 高正	加藤 浩一郎	小見川 健
畦元 直三郎	上林 直也	加藤 慎次郎	小宮 順子
安達 昭郎	植松 貢	加藤 仁	小山 真樹
荒木 亘	植村 治	加藤 浩一郎	小山 洋
荒澤 康夫	牛込 淳彦	加納 照彦	斎藤 一郎
荒谷 作松	白井 徹郎	鎌倉 良太	斎藤 二郎
有田 喜一	内田 穆貴	上條 陽一郎	齊藤 孝
安藤 芳憲	梅田 栄一	上條 治夫	齋藤 英史
五十嵐 輝行	江田 久雄	亀ヶ森 進	齊藤 政久
池田 富三	榎本 充男	亀谷 久雄	酒井 誠一
石井 喜悦	大井 英一	亀村 轟	崎下 昌道
石岡 龍右	大井 壽	河合 士郎	佐久間 恒和
石川 佳太郎	大石 哲	河合 哲次	佐々木 賢明
石黒 良信	大内 募	川口 國雄	佐々木 典世
石橋 昭	大川 襄治	川津 義人	笹原 孝
石山 利男	大久保 寛一	河村 勝弘	定方 聰博
磯 基道	大熊 義雄	木下 眞喜雄	佐藤 栄一
磯崎 誠也	大野 正博	木村 吉延	佐藤 馨
磯崎 昭徳	大庭 栄司	清永 弘興	佐藤 忠
市川 哲郎	小笠原 幸道	楠 勝行	佐藤 慎一
市川 次良	岡田 賢識	熊谷 祐一	塩澤 敏行
伊東 達郎	荻田 秀夫	倉澤 守雄	重田 勲次
伊藤 博国	奥谷 忠雄	栗田 直人	志田 智三郎
伊東 穂高	小栗 勝治	栗田 雅子	漆原 孝太郎
伊東 誠英	尾崎 武二	栗原 昌昭	斯波 義男
稻植 正	小田切 孝光	栗原 清文	渋谷 博司
稻垣 義雄	越智 健二	栗村 規雄	清水 英利
稻野辺 教夫	小俣 文和	黒木 妙子	清水 繁
井野 二陸	笠間 三男	小島 和夫	庄司 翠
井上 靖治	梶原 康敬	小島 元昭	白石 恵一

末澤 二郎	手島 馨	樋口 孝夫	宮崎 裕子
末延 温之	手嶋 晴幾	日暮 忠弘	向井 常雄
菅 秀夫	寺嶋 一彦	平野 勝己	村川 信子
杉崎 秀夫	寺山 毅義	広瀬 德行	村原 伸
杉田 松生	遠山 岳史	廣橋 亮	村松 勉
鈴木 勝	栃木 勝己	深沢 康俊	森 勝彦
鈴木 信夫	外山 研次	深澤 豊史	森 伸一
鈴木 敏元	苗村 富七	深津 誠	森田 孝節
砂澤 周一	長岡 美佐子	福島 弘之	八木 信雄
炭田 幸宏	永島 一男	藤井 幸夫	安江 任
関口 勝	長嶋 潜	藤池 亜紀子	安澤 賢一
関口 優紀	中田 栄一	藤池 一誠	矢野 誠
園田 勲	中谷 宏	藤池 誠治	矢野 彰一郎
高桑 豊	長橋 進	藤池 暁子	山浦 寛
高田 芳行	中村 智	藤野 裕	山崎 彰
高田 昌子	中村 宗光	古川 新	山田 達雄
高野 俊彦	中村 幸雄	古舘 和夫	山本 嘉昭
高橋 健一	中山 佳則	坊下 堅太郎	山本 (元山)
高橋 良彰	波岡 宣彦	穂住 忠男	成也
高橋 一正	波岡 里香	細田 武文	矢本 瑗郎
高橋 秀雄	新澤 浩	細谷 文夫	横倉 隆康
高間 伸一	新谷 勲	前田 明德	横畠 良司
高松 武生	西 宗雄	正岡 真弓	横山 二郎
武田 (神宮司)	西谷 元伸	真下 清	吉川 和男
弘	西原 豪男	増田 金作	芳崎 弘一郎
武安 栄樹	西山 孝彦	松田 誠一	吉田 耕一
田崎 昭市	西脇 鉄雄	松田 稔	吉永 利男
館 敏夫	野島 香次郎	松田 雄一	吉野 早苗
田中 昭二	野村 友次	松田 弘幸	吉野 徹
谷藤 善美	野村 昌夫	松永 正	米田 修一
玉置 憲三	長谷川 修一	松村 清利	米田 虎雄
田村 碩基	花井 秀之	松本 健次	米山 廣保
田原 恭一	林 秀憲	丸山 長資	若林 弘一
丹野 隆喜	林 良吉	丸山 武紀	渡辺 明典
土田 久	原 敬二	三浦 修	渡邊 光夫
椿山 雄久	原 幹夫	三田 郁夫	渡辺 義久
坪井 聰介	原田 洋二	三谷 治郎	和田守 哲治
出蔵 隆輝	原田 茂	箕浦 滋	

工化会名簿(CD-ROM版) 発行のお知らせ

工化会会員委員会では平成16年発行に向けて、平成10年版を大幅改定した工化会名簿をCD-ROMで発行すべく準備を進めております。本年度より、冊子での販売は行わない予定ですが、印刷物をご希望の場合は、卒業年度の名簿を印刷して送付するサービスの実施を検討中です(1年度を1単位とします。単位価格未定)。現在、学内外の関係者の方々に試作版をご覧頂いており、来年の発行時にはご期待に添えるものに仕上げるべく改良を加える作業を進めております。購入方法等の詳細は来年度発行の工化時報に掲載致します。この機会に是非、ご購入のご検討をお願い致します。

対応OS : Windows, Macintosh

価格 : ￥2,000- (予価)

産業廃棄物収集・運搬中間処理のスペシャリスト

株式
会社 **三 栄 興 業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-302

60年卒 **鈴木 義弘**

TEL 0489-55-1632 E-mail:sanei@pc-mind.co.jp

化粧品原料から製品まで 化粧品OEMメーカー

東色ピグメント株式会社

〒124-0012 東京都葛飾区立石6-37-14

昭和58年卒 代表取締役社長 **嶋原 靖宏**

TEL03(3693)1050 FAX03(3693)1053

クラス会・同窓会の報告

一新会50周年記念会(1952年卒)

2002年5月15日、伊豆山ウエルハートピア熱海で卒業50周年クラス会を行なった。家族同伴2名を含め33名が各地より参集、青木・勝又両君の司会で、物故者22名の黙祷を捧げ、乾杯。和井内君の母校の近況・市川君より工化校友会報告、有志よりの挨拶などなど、敗戦の余韻漂う学生時代に辛苦を共に青春を謳歌した懐かしき面々の懇談は尽きなかった。“若きエンジニア”を高唱、万歳三唱して、中締め、引きつづき2次会のカラオケ大会に移行、一夜を盛大に開催した。翌16日、別れを惜しみながら、再開を約して散会した。卒業50周年を期して、役員への投稿・学園記念歌等を編集し、30周年に引き続き“一新会50周年記念誌”を刊行した。(田村博記)



金丸研・和田研 1966年3月卒業同期会

(2002年5月3~4日)

卒業後36年目の第一回同期会{14名中9名(石岡、石川、加藤、川中子、杉内、奈倉、成瀬、芳崎、渡辺)参加:思い返せば就職先は大手のみ}が定年退職される田川さんを慰労する会も兼ね熱海で開催された。

ホテルに着くや学生時代の話肴に雀卓を囲むやらビールで乾杯やらのプレ懇親。夜の宴席では亡き金丸先生と急逝した新井君のために黙祷、長老川中子君の田川夫妻への慰労の言葉と乾杯の挨拶一金丸研卒を後押しにして頑張ってきた一金丸先生への感謝の念を感じた顔々。次いで田川さんから「教師として初めて接した学生で印象深い」との話や退職後のこと、更に同席された田川夫人の紹介(何と和田研出身)があり神妙に承った。多くの「プロジェクトX」並みの苦勞(手柄?)話や退職組(9名中5名)の暮らし方が語られ、酒の勢いで質問百出の大はしゃぎ。2次会では麻雀組、囲碁組に加え、夫人よりの極上黒糖焼酎を煽って「日本の現状と将来」を語り合う者もあり。また「米寿を祝

う会」での和田先生の快気炎の披露話に「先生らしい」との声多し。翌朝、石川君の古色蒼然・性能抜群のカメラで記念撮影後、欠席の諸氏も交えた再会を期し散会。(奈倉 記)



有機同窓会開催報告

平成14年11月9日(土)、「日本教育会館」(千代田区一ツ橋)において有機同窓会が開催された。有機同窓会は故庄野信司教授門下の新制第1回(昭和27年3月)から第19回(昭和45年3月)までの有機合成化学研究室の卒業生で組織され、総勢は400名を超える。当時は現在の有機合成化学研究室と高分子合成研究室の区別がなく、全員有機合成化学研究室内の所属であった。

同窓会当日の出席者は第2回生から第19回生までで約60名であり、特別会員の板橋国夫先生、山田 翠先生のご出席【残念なことに特別会員の池村 糺先生(海外旅行)、三羽忠廣先生(高齢のため)はご欠席】の下、会長の炭田幸宏氏(第10回生)の開会挨拶の後、乾杯、懇談に移った。出席メンバーは大半が第1線を退いているわけだが、酒量と共に若返り、板橋先生、山田先生の若さの秘訣や学生時代の思いで、社会情勢等々の話題に大いに花を咲かせ、お手伝いの現役大学院生・4年生とも一緒になって盛り上がり時間の経過を忘れる程であった。最後に2年後の再会を期し散会となったが、2次会に出掛けた「若者？」も多いようであった。



第13回板橋先生を囲む会開催

平成14年8月31日(土)、9月1日(日)にかけて1泊2日で第13回板橋先生を囲む会を開催した。本会は主に有機合成研究室で学位を取得した方および関係者で構成されており、毎年1泊2日で研究報告・近況報告並びに懇親を図ることを目的としている。本年は大塚製薬(株)天城高原荘にて開催されたが、宿舍の関係で出席者は10名となった。

当日は天候にも恵まれ、宿舍からは昼間は遠く伊豆大島、利島が望まれ、夜間には僅かに街明かりが窺える程度で星座観察もでき、参加者全員満足のできる会となった。翌日は伊豆の踊り子ゆかりの地を散策の後、翌年の再会を期し散会した。



山中健生 先生退任記念祝賀謝恩会

去る、平成14年5月14日(吉日)、都ホテル東京にて”山中健生先生 退任記念祝賀謝恩会”が開催されました。当日は、山中教授をはじめ、第1~9期卒業生(合計174名、出席者77名)、長田先生、西村先生そして現役長田研(旧山中研)在籍者の出席のもと行われました。当日残念ながらご出席が出来なかった方から電報も頂戴しました。山中先生を囲んで話に花が咲いている輪や、卒業以来しばらく顔を合わせておらず、久しぶりに会えて昔話に、近況報告に話を弾ませる先輩後輩といった楽しい一時を過ごされていました。また各代の卒業生による、山中先生とのそして山中研との思い出のプレゼントが行われました。映画の予告編を彷彿させるようなものもあり、参加者の目を釘付けにさせていました。そして会の2時間半はあっという間に過ぎ、山中先生への記念品贈呈、先生からのお言葉で会はお開きとなりました。これからは長田研となり研究内容も若干変更があるようですが、日大理工学部オンリーワンのバイオ研究室として、将来を担って頂きたいものです。これからの山中先生、長田先生、卒業生、在校生の今後の御健康と御活躍を願ってやみません。



高分子合成研究室卒業生の会リニューアル！ “同友会”発足

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2002年までに670名を越える卒業生を送り出しており、本年33期目の卒業研究生を迎えた。池村糺教授から矢野彰一郎教授にバトンが渡されて6年目、豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点(梁山泊)形成による科学技術創造立国への寄与を目的とし、2002年10月19日(土)池之端文化センターに参集した160名全員(+委任状150名)の賛同を得て、“同窓会”から“同友会”(矢野彰一郎会長、津野岳彦、関口優紀および澤口孝志副会長、木村文紀幹事長、小笠原守人および嶋原靖宏会計、中村信夫および渡部武則監事)へ生まれ変わった。本会は、研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室(矢野yano:03-3259-0799;澤口sawaguti:-0819;萩原hagiwara:-0433;****@chem.cst.nihon-u.ac.jp)にご一報を!来るもの拒まず去るもの追わずである。次回は2003年11月1日(土)18:30~虎ノ門パストラルにて開催される(詳細は広告参照)。

来たれ! 高分子合成研究室卒業生!!

高分子合成研究室卒業生の会「同友会」第2回総会を2003年11月1日(土)18:30ヨリ虎ノ門パストラルにて開催します。コミュニケーションの輪を広げに是非来て下さい。第1回総会(2002/10/19:池之端文化センター)には160名の方が出席されました。連絡先は03-3259-0819 研究室 澤口 (sawaguti@chem.cst.nihon-u.ac.jp)まで

「昭和35年卒クラス会便り」

平成14年11月8日に恒例のクラス会を”アルカデア私学会館”で開き、和井内、市川両先輩先生をお迎えして、我ら18名の少数ながらも賑やかな懇親会となりました。現役の連中も少なくなり、健康を気にしながら趣味三昧の者が多くなりました。会の愛称をと意見が出ています。次回の多くの出席者をもって決めたいと思います。この2年間で山川、本間(富)、太田(秀)の各君が亡くなりました。ご冥福を祈ります。

次回は平成16年11月12日を予定しています。(安達)



学生編集委員のページ

<物質応用化学科について>

普段私達は何気なく学生生活を送っている気がします。そこで今回、私達学生が何気なく送ってきた学生生活の中で皆が物質応用化学科をどのように思っているのか?を知るために「この学科の良い所・悪い所」について3、4年生を対象にアンケートを行ない、6割程度の回答を得ました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

Q1の「この学科及び授業について」ですが良いと思う人が36%、悪いと思う人が63%でした。良いところとしては「化学に対して広く学べる」、「視野が広がった」が主な意見であり、少数意見としては「実験が多種類あり化学以外の事に興味が持てた」などがありました。また、悪いところとしては「受講人数が多い」が最も多く、理由としては「授業中うるさくなり講義内容が理解しづらい」が挙げられます。また少数意見として「講義内容が重なるものが多い」、「黒板の字が見にくい」などがありました。

以上のアンケート結果から受講人数が多いと授業中うるさくなりますが授業自体は化学を広く学べ良かったようです。

Q2の「大学側の就職に関するサポートについて」ですが良いと思う人が31%、悪いと思う人が47%でした。良いところとしては「OB・OGが多いので情報がたくさん集まる」、「日本大学の知名度が高いため就職に有利だった」が挙げられる一方、悪いところとしては「大学側のサポートが少ない」、「日本大学に対する世間の評価が低い」、「就職説明会を始めるのが遅く、さらに研究室の配属が遅いので就職活動を進めにくい」と厳しい意見もありました。

以上の結果からOB・OGが多いとそれだけ情報が集まりやすいので就職に役立つようです。ただ、研究室の配属や就職説明会などが全体的に遅い分、3年生のうちから進路について自分で考えておくことが必要なようです。

Q3の「大学院進学について」ですが3年生で進学を考えている人は34%で、4年生で進学を考えている人は20%でした。主な進学希望理由としては「より専門的な知識が身に付く事で学部卒より研究職につきやすいと思う」が主な意見で、少数意見としては「修士の方が給料がいい」、「大学に長くいられるのでそれだけ自分の時間を持てる気がする」と3、4年生の学年別での違いがなくほぼ同様の意見でした。

ガイドブック等に掲載されているように修士卒は専門技術や知識を身に付けていることから即戦力として製造業などの企業に有利と言えます。

Q 1 良いと思う どちらとも言えない 悪いと思う



Q 2



Q1~Q2から「悪いと思う」と考える人の方が多い結果となり

ましたが、化学の授業や学生実験を通して化学だけでなく化学以外の事を学び、この学科でよかったと思う学生が多かったことがわかります。

また、Q3では学生の大学院に対する考えが専門技術や知識を単に身に付けるというよりは、就職に有利になる目的で大学院を考えている人が多いようです。今回のアンケートから、学生や先生方が満足している事や不満に感じている事を話し合う場を設ければ学生生活がもっと広がると思います。また、就職に関して言えば3年生までは漠然としたイメージしか持っていない人もいようなので、就職活動中の人や内定が決まった4年生などに話しを聞いてみてはいかがでしょうか？

お 知 ら せ

平成15年度の行事予定

- 5 / 31 (土) 工化会総会
 7 / 26 (土) 1日体験化学教室
 8 / 3 (日) オープンキャンパス
 11 / 21 (金) 第3回 産学技術交流会 (化学) 2003

工化時報 連絡先

TEL:03-3259-0827

E-mail:jihou@chem.cst.nihon-u.ac.jp

広 告 募 集

工化時報では会社広告を募集しています。広告掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1年:10,000円

発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8
 日本大学理工学部工化会会報委員会編集委員会

◎伊藤 和雄、永島 一男、小川 誠、橋本徳子、澤口 孝志、
 石黒 香織、谷川 実、遠山岳史、平野勝巳、森田 孝節
 学生編集委員

M2 河村 真由、小島 正浩

M1 中川 直樹、藤田 泰、蓑島 麻子、

4年 木村 昌宏、小林 博之、進藤 雄亮、相馬 崇博

3年 平田 清美、星野 行勝、洞口 由香、八巻 志帆

2年 大貫 将司、岸野 雅也、小菅 将彦、鈴木 健太、

桜井 祐輔、高木 裕輔